

## 第24回「大学コンソーシアム岡山」運営委員会 議事要旨

- 日 時：平成23年8月22日（月）17時00分～18時20分
- 場 所：岡山商科大学 7号館 7階 772教室
- 出席者：30／36
- 欠席者：岡山学院大学（高田），川崎医科大学（堀江），環太平洋大学（中原），中国学園大学（飯田），ノートルダム清心女子大学（加藤），岡山経済同友会（梶谷）
- 陪席者：山陽新聞社（在間，滝本），中国銀行（川口）

### ○議 事：

議事に先立ち、井尻会長（岡山商科大学学長）から挨拶があった。続けて、大崎運営委員長（岡山商科大学副学長）から前回議事要旨（案）の確認が行われ、原案どおり承認された。

### ○審議事項

#### 1 岡山オルガノン事業継承案について

木村岡山オルガノン将来構想委員会委員長（岡山理科大学学外連携推進室副室長）から、【資料1】に基づき、詳細な説明があった。会長から、遠隔講義の利用効率やコストパフォーマンス等について詳細な説明資料が必要であるとの指摘があった。これについて、木村委員長から口頭で回答され、今後必要な会議に諮る際にはそれらを示す資料を提供することが報告された。

また、金光委員から、各大学によって遠隔講義の取り扱い方が異なり、教育に取り入れる余地のない場合もあることから、有効な活用方法を考えると規模の縮小を検討してもよいのではないかとの意見があった。また、事業維持費について、学生数に比例した金額の設定であることに納得できないので、他の大学の意見も聞きたいとの意見があった。これに対し、大崎運営委員長から、文部科学省からは選定された事業を10年間は維持するよう指導があり、継続していることを示すことが必要であるとの認識であるとの回答があった。

続けて、金光委員から、継承について反対しているわけではないが、文科省からの指導で引き続き事業を行うからには、事業の有効性を高めなければならないし、他の大学とのコンセンサスや協力体制をより高めなければならないとの意見があった。これに対し、木村委員長から、3年間の短い期間で岡山の大学で協力して新しい教育を作ることの難しさを実感し、その中で他の岡山の大学生にも教育を提供しようという寛大な精神に対して大変感謝している旨が述べられた。また、3年間の中で、遠隔教育を各大学の教育の枠組みに入れることへの難しさも実感しており、今回の案で学生数に比例した負担金を設けたが、大学によっては対応いただくことが難しいことも承知している。このことについて調整は必要だと思っており、今後詳細な検討を行っていく旨の報告があった。

大崎委員長から、本件については事業費として平成24年度事業計画案に盛り込むことについて提案があり、承認された。また、負担金額や詳細な事業計画については継続審議とし、本件へのご意見等を各大学で検討いただき、

将来構想委員会及び事務局へ連絡していただく旨の提案があり、了承された。また、今後必要な会議に諮っていくことが承認された。

2 平成24年度事業計画案について

委員長から、【資料2】に基づき、詳細な説明があった。平成24年度会費の値上げについて検討していたが、平成23年度予算の予備費（前年度繰越金）が700万円を超えたため、会費の値上げはしないとの提案があった。審議の結果、次回の代表者会議に諮ることが承認された。

3 平成22年度収支決算書について

委員長から、【資料3】に基づき、詳細な説明があった。審議の結果、次回の代表者会議に諮ることが承認された。

4 平成23年度補正予算案について

委員長から、【資料4】に基づき、本コンソーシアムは設立から6年を迎え、関係者に相当の変更があったことから、これまでの経緯を纏めた冊子を作成するための印刷製本費を予算計上したい旨の説明があった。審議の結果、次回の代表者会議に諮ることが承認された。

○報告事項

1 各事業部報告について

各事業部から、以下のとおり議題について報告があった。

(1) 大学教育事業部

増間委員代理（岡山大学学務部学務企画長）から、【資料5-1】に基づき報告があり、各大学学生支援に関する情報共有の場として、9月15日（木）に岡山大学で開催される「カルト問題に関する講演会」について、加盟校に参加依頼を行った旨の報告があった。

(2) 社会人教育事業部

大槻事業部リーダー（川崎医科大学学長補佐）から、【資料5-2】に基づき報告があり、平成23年度前期吉備創生カレッジの受講状況について、受講者数が半期500人を超えた旨、山陽新聞社企画の特別講座の受講生も併せると650人近くの受講があり、ある程度定着してきたことが伺える旨の報告があった。また、後期吉備創生カレッジの科目について報告があった。さらに、吉備創生カレッジの単位を20単位及び40単位取得された受講生に単位認定式を行い、単位認定証と記念品（楯）を贈る旨が報告された。

続けて、山陽新聞社事業本部の在間部長から、吉備創生カレッジ事業への協力に対して謝辞が述べられた。また、半期に1講座ずつの「特別講座」を引き続き開講し、吉備創生カレッジのPRと各大学のイメージアップを図りたい旨、後期は10月15日（土）に「岡山の地震と津波災害」をテーマに開講する旨の報告があった。

(3) 産学官連携事業部

木村事業部リーダー（岡山理科大学学外連携推進室副室長）から、【資料5-3】に基づき報告があり、「キャリア形成講座」と「ちゅうぎん金融知力講座」が開講される旨の報告があり、各大学での広報と履修受付への協力要請があった。

- 2 岡山経済同友会主催「東日本大震災復興支援ボランティア」について  
原副委員長（(社)岡山経済同友会教育問題委員会委員長）から、本ボランティアの趣旨について報告があった。また、山陽放送のカメラマンが同行し、追ってニュースの特集として放映される旨の報告があった。  
続けて、委員長から、【資料6】に基づき、詳細な説明があった。

○その他

- 1 第9回おかやま県民文化祭メインフェスティバル入場者募集について  
委員長から、机上配付資料に基づき説明があった。
- 2 会員種別について  
委員長から、賛助会員の特典について問い合わせがあった旨の報告があった。今後、会員のプロモーションを行うことについて、本コンソーシアムの財務状況の改善に繋がればとの思いから、外部の反応を見ながら検討していきたいとの報告があった。

なお、本会議は「岡山オルガノン」の遠隔講義で使用しているテレビ会議システムを使用して行われた。

以 上